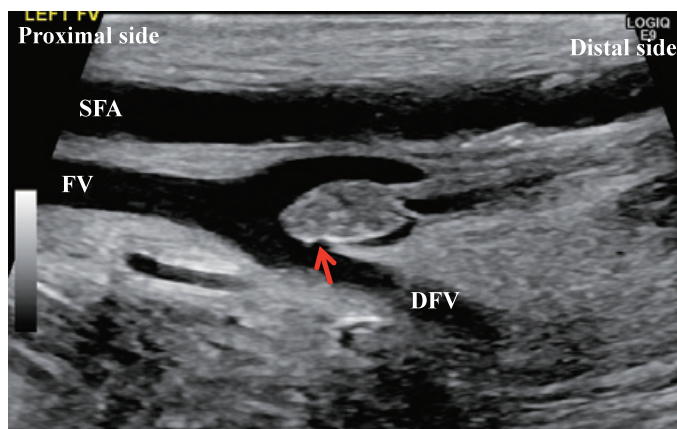


大腿静脈の浮遊血栓

岡島 年也¹ 保田 智美² 横山 麻子² 小林 克弘¹

Fig. 1 下肢静脈エコー所見. 左伏在大腿静脈接合部よりもやや末梢側の左大腿静脈に等輝度からやや低輝度の楕円形の静脈血栓 (矢印) に連続して棒状の血栓が大腿静脈壁に固着していた. なお, 浮遊血栓は約 3.4 cm 長と 5 cm 未満であった (SFA: superficial femoral artery, FV: femoral vein, DFV: deep femoral vein)



深部静脈血栓症 (deep vein thrombosis: DVT) 診療に際して慎重な対応が求められるものに浮遊血栓がある. 浮遊血栓とは, 画像所見上, 静脈血栓の末梢の部分は血管壁に固着し, それより中枢の部分が 5 cm 以上静脈壁に固着せず静脈内腔に浮遊している形態と定義される. 浮遊血栓は腸骨大腿静脈に多く, 急性期 DVT の約 10 ~ 20% に認められ¹⁾, 約 30% が肺血栓塞栓症を合併し注意を要する血栓形態と考えられる. 治療開始後 2 週間で約 30% が消失, 6 ヶ月で約 90% は完全に消失すると報告されている²⁾.

本画像は, 左伏在大腿静脈接合部よりもやや末梢側の左大腿静脈に約 3.4 cm 長の浮遊血栓を示している. 血栓固着部より末梢側の大腿静脈には浮遊血栓以外の静脈血栓を認めず, 左膝窩静脈に局限する壁在血栓のみを認めた (**Fig. 1**). なお, 本症例は術前超音波検査で偶然発見されたもので, 異常所見は D-dimer の陽性所見のみで, その他各種検査上, 急性静脈血栓塞栓症 (venous thromboembolism: VTE) が示唆される所見は認められなかった. また, これ

までの臨床経過において, 本症例に VTE が示唆される経過はなく, 今回の画像所見は大腿静脈から膝窩静脈にかけての DVT が自然経過の中で, このような浮遊血栓の形態を呈した慢性期の静脈血栓へ変化したものと推察された.

迅速かつ適切な対応が求められる急性期 VTE 診療において, 超音波検査は, 浮遊血栓のような動的な病態を詳細に評価し得る事が他の画像検査と比較した際の利点と考えられる.

利益相反

著者は, 本論文に関して利益相反はありません.

文 献

- 1) Berry RE, George JE, Shaver WA. Free-floating deep venous thrombosis. A retrospective analysis. *Ann Surg.* 1990;211:719-22.
- 2) Voet D, Afschrift M. Floating thrombi: diagnosis and follow-up by duplex ultrasound. *Br J Radiol.* 1991;64:1010-4.

Free-Float venous thrombus of femoral vein

Keywords: free-float venous thrombus, deep vein thrombosis, ultrasonography

¹協立病院循環器科, ²同検査科

Toshiya OKAJIMA¹, Tomomi YASUDA², Asako YOKOYAMA², Katsuhiro KOBAYASHI¹

¹Department of Cardiology, ²Department of Clinical Laboratory, Kyoritsu Hospital, 16-5 Chucho, Kawanishi, Hyogo 666-0016, Japan

Received on November 28, 2018; Revision accepted on January 8, 2019 J-STAGE. Advanced published. date: February 25, 2019